

第5回平塚市社会教育委員会議要旨

- 1 日 時 令和5年6月6日(火) 15時05分～17時00分
 - 2 会 場 平塚市役所410会議室
 - 3 出席委員 井手委員、山崎委員、大和田委員、鈴木委員、丸島委員、小巻委員、
畠中委員、江水委員、飯田委員、河野委員
欠席委員 伊東委員
 - 4 事務局 平井社会教育部長、田中社会教育課長、鳥居中央公民館長、
木村課長代理、木村主査、吉水主事
 - 5 傍聴者 なし
 - 6 会議要旨
-

<第5回会議>

※資料の確認

事務局から配付資料の確認があった。

1. 新規委員及び新規事務局職員の紹介

新規委員、新規事務局職員の自己紹介が行われた。

2. 令和5年度社会教育関係事業について

<P2>

○事務局

令和5年度の社会教育部各課の事業についてはP2～P8である。社会教育課と中央公民館について簡単に説明させていただく。

<P2>

社会教育課の事業の概要及び事業予定、芸術文化子ども体験事業と地域教育力ネットワーク協議会のおおすみネットワークのモルック事業の紹介を事務局から説明した。

<P3>

公民館の事業の概要及び事業予定、中央公民館での市民大学講座の紹介について、事務局から説明した。

3. 議事

○議長

事務局から今年度の特徴的な事業等あれば、教えていただきたい。

○事務局

昨年度は文化祭やスポーツイベント等概ね予定どおり開催することができた。今年度は6月4日にひらつかサン・ライフアリーナにてトリムバレーボール大会はスポーツ推進員

や体育振興会の方々の御協力のもと、15地区から178名の参加があり、盛大に開催することができた。5月8日から新型コロナウイルスが5類に引き下げられて、地域の方の参加の機運が高まってきていると感じる。

その他のイベントでは、8月に水泳大会、秋には地区レク、市総体、市文化祭が予定されている。美術館、博物館については各種特別展が予定されている。特に今年はNHKの大河ドラマの関係で徳川家康に関する特別展も予定されている。

また、市長は子育て政策に力入れており、新しく大神地区にできた商業施設内のフードコート近くにあるプレイスペースに図書館から絵本のコーナーを設けていることが、朝の情報番組でも取り上げられている状況。

必要な感染対策をしつつ、事業等の活動を引き続き実施していく予定である。

質疑

○副議長

トリムバレーボール大会の参加者からの声（アンケート）など情報発信することを考えているか教えていただきたい。

○事務局

市ホームページでの発信を始め、スポーツナビでの大会結果等の情報の掲載を予定している。また、スポーツ財団の広報誌等での掲載も考えている。

今年度スポーツ推進計画の改定が予定されており、その中で市民アンケートやパブリックコメントにて市民の声を伺いながら計画に反映していきたい。

○副議長

若い世代はインスタグラムを使っているので、市のインスタグラムなど若い世代への情報発信をしていっていただきたい。

議事（1）令和5年度社会教育関係団体等への補助金の交付について、事務局から報告をお願いしたい。

(1)令和5年度社会教育関係団体等への補助金の交付について

< P 9 >

○事務局

補助金の交付については、社会教育法第13条『国又は地方公共団体が社会教育関係団体等に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない』という規定がある。

社会教育部の6課のうち団体に補助金を交付しているのは、社会教育課とスポーツ課の2課である。社会教育課においては、5年度は、補助金予算総額4,004,000円で、昨年度から2,524,000円の増額になっている。この増額は平塚市指定重要文化財「正福寺薬師如来立像」の修繕のための増額となる。スポーツ課においては、補助金予算総額3,649,600円で、昨年度と同額になっている。

<P10、11>

参考資料として、部内の社会教育関係団体への委託契約一覧をまとめている。

質疑

○委員

社会教育課の委託料の中で金目エコミュージアム推進事業とあるが、市内の他地区から同様の事業の申し出はあるか。

○事務局

他地区からの申し出はない状況である。

○委員

他地区で金目エコのようなことができていない理由等がもし分かれば教えていただきたい。

○事務局

金目地区のエコミュージアムは歴史的背景や自然や文化資源が揃っていることもあり、実施できていると考えている。他地区でもできるかといえばなかなか難しいところがあるかもしれない。

○委員

エコミュージアムの全国大会を金目で10月に実施する計画があるので、お聞きした。ありがとうございます。

○議長

昔、歴史再発見事業として市内で8～9箇所で開催したのがはじまりで、金目エコだけでなく、村井弦斎まつり委託料もその流れだと記憶している。ほかに中原の鷹狩行列など地域独自で今も活動を続けているところもある。

(2)神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について

今年度の神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について、事務局から説明した。今後の事業予定として、研修会や地区研究会が予定されている。正式な開催通知が届いたら、改めて出席の意向を確認する。

(3)テーマ協議

○議長

今期テーマは昨年度に「子どもの地域参加・参画」と決定した。今期までに協議した内容を報告書としてまとめていきたい。本日は各地区での地域活動等の状況や新しい取り組み等あれば情報提供いただきたい。

大野中学校区の教育力ネットでは、大野ネット通信を発行しているが、コロナで地域活

動が中止になり、発行ができずにいた。今回久しぶりに発行した。内容は昨年度に大野中で学校運営協議会がスタートしたので、その紹介をしている。今年度は学校に地域の人を呼び込んで活動をしていきたいと考えている。

地域の方が学校活動に協力した場合の保険について、学校で加入している保険や市で加入している市民活動災害補償制度では、学校主催の事業に参加した市民のボランティアの方までカバーすることができていない問題がある。学校単独の事業ではなく、教育力ネットとの共催であれば保険の対象になるかもしれないということだった。今後、共催事業について検討していく予定である。

中学生は地域に出てボランティアをし、地域の方は学校でボランティアをし、双方が顔の見える関係づくりをしていけると良いと考えている。

○委員

地域の行事が少しずつ復活してきており、岡崎地区では交付金を活用して地域のカルタを作ることになった。岡崎地区地域活動推進会議が主催し、青少年指導員をはじめとする編纂委員会で進めている。

○委員

江陽地区では、昨年度、地域行事が再開され、中学校も声を掛けていただいた。子どもの参加率はコロナ前に比べて2～3割という状況だった。そんな中、地域のカルタ改訂（主催は地区社協）に関わった。駅周辺の中学校であるので、区域外の生徒もおり、地域のカルタの絵や読み札を見ることで地域の地名や文化等を知るきっかけになっている状況を目の当たりにした。

また、八幡宮のお祭りに中学生が参加した。子どもたちは初めての参加で緊張している様子が見受けられたが、異年齢の方々から褒めてもらえて、普段見せないような恥ずかしいような誇らしいような顔を見ることができた。子どもたちにとって地域での縦の関係と学校での横の関係を展開していくことの重要性を感じている。

○委員

7月14、15日に自治会と小学校が共催して防災キャンプを予定している。対象は5・6年生58名で学校の授業として実施される。内容は起震車体験、ロープの結び方講習、校内にある防災倉庫にあるものを使った体験、市災害対策課からの防災講話（30分）となっている。

朝の炊き出し体験も検討したが、食中毒の恐れがあるとの声で見送りとなった。本音は子どもたちに企画会議から入ってもらいたいという思いがあったが、夜の会議になることからなかなか難しい状況であり、来年以降の課題である。

○委員

昨年度、公民館のシニア学級の参加者が例年より少ない状況であった。対象年齢の60歳以上の方の人口は増えているが、なかなか参加者が伸びないことが課題であった。シニアのニーズを吸い上げるため、今年度の企画会議から地域内の複数の老人会に声を掛け、

さまざまな案を出してもらった。今年度のシニア学級の参加者は昨年度の2倍という結果になった。講座参加者が講座立案に参画してもらうことで積極性が出てくるのではないかと感じている。

また、地域団体連絡会へ小学校長に来ていただき、意見交換をする機会があった。地域行事に子どもたちを参加者として募集するよりも学校の総合学習のカリキュラムとして位置付けて実施することは可能か学校に聞いたところ、週1回のを1回にまとめて実施することができるということだった。吉沢は地域の自然や歴史的な資源が豊かなので地域探検をクラス単位で実施したいと相談し、6・9月に小学4・5年生と保護者を対象に実施する予定である。

○副議長

小学校では生活科で地域探検をグループごとに分かれて実施していたりする。子どもの「もっと知りたい」ということがあれば、地域の方に依頼をして、質問を受けてもらったりすることができるのであれば、子どもたちはもっと地域に関心を持つかもしれない。学校と地域の結び付きが大切だと感じた。

○議長

昨年、小学校から3年生で地域の歴史についていくつか質問があるので、学校に来て対応いただきたいと依頼があった。スライドを活用しながら、質問に答えたということがあった。学校と地域が顔の見える関係を作っていたからできたと思う。子どもと地域だけでなく、学校の先生も地域と顔の見える関係を作っていくことが大切だと思う。

○委員

P T Aの関係で特に任意加入についてクローズアップされることがある。ある小学校が今年度から加入申込書を提出してもらう方式にしたところ、加入者が3割減になったそうである。中学校P T Aではどのように対応するか考えているそうである。

P T Aだけでなく、子ども会育成会でも解散している地区もある状況であり、役員をやりたくないことが加入率に影響していると思う。コロナで団体の活動がストップしていて、それが数年続いたことで、活動を再開することが容易ではないのだろうと感じる。

地区の自治会でも同じように加入者が減っている状況である。理由は朝の資源ごみ当番として7時～8時の忙しい時間帯にごみ集積所に立つ当番が若い世代には負担ということがあるのでは。

地域によっては子どもの通学等の旗振りを担う交通安全協会の担い手がなく、解散している状況で閉塞感が出てきていると感じる。

学校のカリキュラムの中で総合学習などはなかなか必要なコマ数を満たすのに苦労する話を聞いたりする。学校のカリキュラムに地域が合わせていくことを考えることも必要ではないかと思う。

○議長

今の話は「子どもの地域参加・参画」を考える上でとても大切な視点であると思う。地

域を支える担い手がいないと地域行事は難しいので、大きな課題である。

○委員

学校などで疑問や質問が出た時に学芸員に聞くということではなく、地域の方に直接聞くということに少し驚いた。私が住んでいる地域では、博物館の学芸員に聞くことが多いと感じる。平塚市の学芸員も素晴らしい活動をしているが、もっと学校や地域の方に「聞く相手」として認識してもらえるようになるといいのではと感じた。

学芸員を目指す学生から話を聞くと、学芸員から直接話を聞いて、学校では教えてくれないことを教えてくれたということが学芸員を目指すきっかけになっているということが結構ある。

(このテーマについては) 学校教育中心の話になっているが、社会教育の博物館・図書館・公民館の職員が子どもたちともっと触れ合う機会を増やす必要があるのではと感じる。学校の授業の中で博物館を見学することを実施していると思うが、学芸員の方の名前を憶えてもらうくらい関係ができると良いのでは。

今回のテーマである「子どもの地域参加・参画」とあるが、子どもたちにとって地域参加・参画をすることでどんな意義やメリットがあるのか、なぜ参加・参画する必要があるのか、子どもが納得する情報を大人が説明してあげないといけないのではないのか。これをしないと大人に言われたから仕方なく参加する子も出てくるだろうと思う。

親子での体験や参加したことは、子どもにとってとても印象に残っているものである。親子で過ごすことができるスポットや場の確保も併せて考えていく必要があるのではないのか。

○委員

先ほどの自治会のごみ当番の話であるが、このようなルールは廃止することができないかと思う。子育て世代が7時～8時にごみ当番をすることはとても厳しい。私の地域では、ごみ当番をやらなくていいような対策ができており、驚いた。

また、PTAも役員などは保護者にとってとても負担であるのに、昔からやっているなどの理由で変わらずに続いている。

○委員

PTAは忙しい教員にとっても負担となっていると思うのでかわいそうに感じる。教員は学校の授業や行事に注力してほしいと思う。全国的には保護者の会として組織している動きもあるようである。

地域の行事で役割を各種団体に割り振ることをしているが、当番制を廃止して、できる人ができる事をやることにしていけるといいのではと思う。

○委員

PTAの旗振り当番が週1回あるが、本当に必要なのかと感じる。働いている方や小さい子どもがいる人は大きな負担だと思う。

○委員

週1回でも啓発することは意味があるのでは。

○副議長

旗振りの目的や課題が共有できていないのではと感じる。

○議長

P T A内で本当に必要な活動か必要な箇所か等、話し合っただけで決める必要があると思う。私の地区では、交通安全協会が解散し、駐在所の警察官と学校の教員が登下校の旗振りを行っている。旗振りをする人員に限りがあるので、そもそも危険箇所を通らない登校ルートを再検討するなど皆で話合う必要があるのでは。今までやっていたから今までどおりということでは回らなくなっている。

○委員

子どもが小さくて家を空けられないような事情がある場合でも旗振り当番は回って来る。

○委員

事情があつて旗振り当番ができない場合には、私の地区ではママ友など知り合いに替わってもらうことがあるようだ。ざっくばらんに相談したりできる地域柄はあるかもしれないが。

○副議長

いきなり旗振り活動自体を無くさなくてもいいのではないか。本当に旗振り活動が必要なのか、P T A役員の方々に聞いたりして、声を上げていくことがあってもいいと思う。親世代の考え方も年齢によって異なることがあるだろうし、まずはおかしいと思うことがあれば、声を上げることが大切で、さまざまな意見の出しやすい雰囲気づくりも必要だと思う。

○副議長

(さまざまな地域の団体で担い手不足があることは)今の時代には昔のままの活動では無理がきているのではと感じる。

民生委員と小学校長との意見交換をする機会があり、ある小学校P T Aで加入の意思表示をはっきりしてもらうことで会員数が3割減ってしまったことを聞いた。特に1年生で非加入者が増えているようだ。今までの活動内容では無理が出てきて、担い手確保がさらに難しくなるので、人手が必要な時にどのように集めるか等、皆で考えていく場がないといけないだろう。

南原地区では子ども会が解散しており、子ども達をサポートする団体として子どもの保護者が「南原ラボ」という自主的な組織を立ち上げている。このような同じ目的意識を持った団体ができることはとてもいいことだと思う。

○委員

P T Aの非会員の割合が増えると例えばP T Aの行事として、豚汁を振る舞う活動をした場合、P T A非会員の子に振る舞うのは不公平だと言う人が出てくる可能性がある。

このような声があるのであれば、P T A会費だけでなく、自治会等からの補助ももらって運営する方法もあるかもしれない。

○副議長

P T Aだけでなく、地域全体で子ども達をサポートしていくという目的意識を共有することが大切ではないか。

○議長

各委員、意見をいただきありがとうございました。

今回、子ども達を支えていく地域団体の担い手不足の問題や活動の見直し等が出てきた。次回の会議は今期テーマの課題やビジョン等を洗い出しするため、事務局から各委員へのアンケートを作ってもらい、次回会議に回答いただきたいと考えている。そのアンケート内容から、次回会議は意見交換をしていきたい。

(4) 今後の会議の予定について

第6回会議日程 令和5年7月25日(火) 平塚市役所619会議室

4 その他

特になし。

以 上